

「会員短信 61」

「笑いについて」

竹下和宏

「笑う門には福来たる」という。申す迄もなく中国の「笑門来福」の日本語訳であるが、大和言葉にすると柔らかく気持ちが良いものだ。一口に「笑い」と言っても、様々なものがあるので分類してみた。

微笑・ほほえみ＝これが笑いの基本で、ふんわりと温かいものだ。

照れ笑い＝いや、そんなに誉めてくれなくてもという嬉しい笑い。

苦笑い＝面白くはないが、ここは何とか笑ってこらえている他ないようだ。

含み笑い＝大声を出す訳にはゆかないが、何とか思っていた通りに事は進んでいそう
だ。

ほくそ笑い＝しめしめ、こちらの思惑は気付かれておらず、思い通りに巧くいっている
わい。

泣き笑い＝泣いているうちに笑ってしまうものと、笑っているうちにいつ
しか泣いてしまうものである。カレーライスとライスカレーの違いのようなものか。

嘲笑＝己のことはさておき、あざけて笑うとは怪しからぬ。

思い出し笑い＝周りの人には理解できない笑い。

呵呵大笑＝大笑いと称されるもの。腹の底から楽しさを吐き出すもの。

この最後の大笑いを一日一回、習慣として実行されることをお勧めしたい。これが出来れば気持ちが明るくなって健康にも良く、良い運勢にも繋がってくる。そうなれば、これは「福笑い」になる。